

# 日本原子力学会核燃料部会 平成20年度第四回運営委員会議事録

日時 : 平成20年12月9日(火) 13:30～15:30

場所 : 原子力学会事務局 会議室

出席者 : (順不同 敬称略)

岩田部会長、安部田副部会長、阿部委員、伊東委員、大平委員、木下委員

員

緒方委員、原田委員、松浦委員、若松委員

永瀬氏(更田委員代理)

## 議事

### 1. 前回運営委員会および第31回核燃料部会総会議事録案確認

阿部委員から、資料No.1-1、1-2に基づき、前回運営委員会および第31回核燃料部会総会の議事録案が提示され、了承された。

### 2. 次回部会報(No.44-2)の企画立案状況について

- ・ 若松委員から資料No.2に基づき、平成20年度部会報冬版の準備状況について、
  - 巻頭言、国際交流ニュース、後輩に伝えること等については執筆者が定っていないが、それ以外の項目については 今月21日締切で各執筆者が原稿作成中である
  - 来月下旬発行目途で準備を進めていきたい 旨、紹介があった。
- ・ 巻頭言はあった方が望ましいとの意見が出され、岩田部会長が執筆を引き受けることとなった。

### 3. 部会報の印刷、郵送作業について

- ・ 若松委員から、資料No.3に基づき、部会報の今後の印刷、郵送作業の扱いについて、
  - 冬版は、従来通り、印刷、発送を学会事務局で行って貰う
  - 夏版は、学会事務局に負担をかけないために、メール配信のみとする ことが提案された。
- ・ 部会が独自に外注業者を使って印刷、発送の実務をするには個人情報にかかる責務が問題となることから、学会が個人情報の取扱についてあらかじめ業者と取り決めを結び、部会は学会から指定された業者(学会との間で個人情報取扱の取り決めがなされている業者)を使うことができないか学会事務局と相談することとなった。  
学会事務局との相談結果はメールにて各運営委員に連絡する。

### 4. 平成21年度予算案について

- ・ 平成21年度予算案について阿部委員から、
  - 資料No.4-1、4-2に基づき、学会からの平成21年度予算申請依頼について、12月22日申請期限で作成すること、繰越金については、具体的な事業計画(国際会議、セミナー等)がある場合を除いて、今後5年間でゼロを目標とするよう指示があった旨、紹介があった。
  - 資料No.4-3(学会提出書式)、4-4に基づき、平成21年度予算案(平成20年度予算をベースに、核燃料部会下に設置された「燃料高度化ロードマップ」実行委員会運営予算を加えたもの)が提示された。  
また、資料No.4-5に基づき、繰越金の今度5年間の計画が提示された。
- ・ 平成21年度予算案については、平成20年度予算をベースとしたものなので、平成21年度重点配分したい項目等があれば、今週中(～12/12)期限でコメントを頂き、コメントが寄せられた場合には来週、メールベースで運営委員の合意をとり、再来週22日学会事務局へ提出することとなった。
- ・ 繰越金の今後5年間の計画については、水炉燃料に関する国際会議が周期的にあり、2011年にも日本で開催せざるを得ない状況である。その準備金として活用することとしたいとの意見があり、今回提示する計画では、繰越金を2011年水炉燃料に関する国際会議にて使用する計画を提示することとなった。

### 5. 2009年「春の年会」企画セッションについて

- ・ 木下委員から、2009年「春の年会」企画セッションについて、
  - 例年春の年会では核融合、材料、核燃料の3部会で日韓セミナー(日本開催)をやっているが、来年は韓国学会設立40周年に当たり記念イベントが5月に済州島で実施される。材料の木村先生から、記念イベント(5月第3週5日間)時に、各部会から2,3名派遣して1日半程度のセミナーをやりたいとの話がある。  
このため、春の年会時の日韓セミナー日本開催は行わず、秋に日本開催としたい。との説明があった。
  - 韓国を含めたアジアのなかでの活動について、技術全体の話として、safety licensingのbasicなところを横並びで揃えていくようなことに日本がリーダーシップをとれるかが重要。国際的標準活動、ビジネス展開で韓国に負けているとの意見があった。

## 6. 平成21年度夏期セミナー準備状況について

- ・ 伊東委員から、資料No.6-1に基づき、燃料、材料、水化学3部会合同で計画されている平成21年度夏期セミナーの概要について以下が紹介され、了解された。また、同様の内容について材料、水化学部会でも紹介され反対意見は出ていないことが紹介された(参加費については両部会に対して未提示であるため、今後打診する)。
  - 期間は7月2日～7月4日、場所は島根玉造温泉、規模は150人程度
  - 初日は基礎分野(学術的内容)について若手(30代程度)による講演、2日目実学(現場的技術)についての講演、3日目は島根3号等の見学
- ・ 海外講師はEPRI FRP、GEの貴金属注入の水屋等が現状候補だが、P,B,中立等どのような陣容とするか伊東委員が案を作り、それに応じて必要なら安部田副部長(MHI)がPの人選をする。
- ・ 地元の話は石見銀山、玉鋼等が候補。玉鋼については日立メタル安来工場に歴史を語る人がいる。また、石見銀山の講演者については岩田部長からの依頼が可能との話があった。
- ・ 今後の予定は、3月の春の年会時にポスターを出すとともに、3部会のホームページに案内を出す。そのタイミングで募集を開始する。

## 7. その他

- ・ 安部田副部長から資料No.7-1に基づき、水化学部会定例研究会への参加報告がなされた。同研究会への参加は秋の大会での水化学部会との合同企画セッション等を契機に誘いを受けたもの。今後、同研究会へは、国内企画(横断活動)担当の木下委員が参加することになった。
- ・ 安部田副部長から資料No.7-2に基づき、TOP FUEL 2009を共催することについて提案があり、了解された。
- ・ JAEA永瀬氏から資料No.7-3に基づきIRSN幹事で開催予定のOECD/NEAのRIA関連ワークショップ、資料No.7-5に基づきJAEA主催の燃料安全研究国際会議2009の紹介がなされた。
- ・ JAEA永瀬氏から資料No.7-4に基づき、WRFPM2011について、TOPFUEL2009の準備会合の席上、日本開催開催を求める声が強かったことが紹介された。年内、来年早々に日本開催の成否を表明する必要があり、運営委員から賛否の意見を出して貰うとともに、受け入れる場合どういう組織、体制で受け入れるか、(中国開催でなくなることに對して)中国との対応も含め検討することとなった。
- ・ 次回運営委員会は、3/23～25東京工業大学で開催される春の年会時に実施することとし、基本的には核燃料部会総会と同日の午前中で後日日程調整を行うことになった。

以上

---

過去の運営委員会議事録の一覧はこちらです。

## [過去の運営委員会議事録一覧](#)

## [もどる](#)

---

(c) [日本原子力学会核燃料部会](#) : 2008-12-15